

コミュニケーション技術応用Ⅱ シラバス

～コミュニケーションに必要な実践的応用力
を身につけよう～



コミュニケーションについて新しい学びを！

普段なにげなく行っている **コミュニケーション**

相手の気持ちを知ったり、自分の思いを伝えたり、自分自身と対話したり・・・

コミュニケーションは誰かと **つながる事ができる** 術

生まれたての赤ちゃんも、おじいさん、おばあさんになっても、障がいを負っても、認知症になったとしても・・・

人とのつながりが **生活を彩ります。**

一人ひとりの気持ちに寄り添った 支援って何？

コミュニケーションの持つ力 ってどんな事？

みんなで考え、感じ、学びましょう。



自己紹介

名前：

趣味：

ギターを弾いたり

絵を描いたり

日本拳法で汗を流したり

職歴：

2005年～2011年

特別養護老人ホーム（介護福祉士）

2011年～2015年

グループホーム（介護福祉士）

2015年～2016年

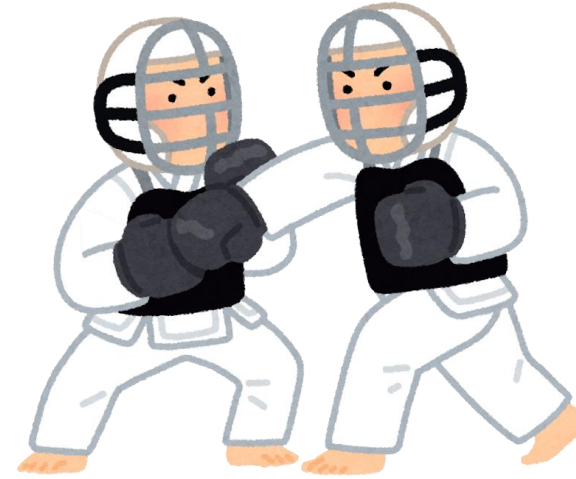
デイサービス（介護福祉士）

2016年～2019年

居宅ケアマネジャー（ケアマネジャー）

2019年～2024年

地域包括支援センター（社会福祉士）



メインテーマ

コミュニケーションに必要な実践的
応用力を身につける。

達成課題

- ▶ 個別性について自身の言葉で説明できる。また傾聴、共感、受容など信頼関係構築のためのコミュニケーションを実践できる。
- ▶ 障害や状況に応じたコミュニケーションが実践できる。
- ▶ チームとしての連携するためにアサーティブコミュニケーション実践できる。またリーダーシップ、情報共有等の意義や留意点について自身に言葉で説明できる。
- ▶ 自己覚知の必要性やストレスコーピングについてを自身の言葉で説明する事が出来る。

身に着けらえる知識・技術

- ▶ ①対人援助において、必要な**個別性の理解**ができ利用者との**信頼関係の構築**に役立ちます。
- ▶ ②**利用者の状態や障がい等に応じた、コミュニケーションスキル**が身に付きます
- ▶ ③**チームワーク**に必要な**コミュニケーションスキル**が身に付きます。
- ▶ ④自己覚知やストレスに対する対処を学ぶことで心身ともに**健康に働き続けられる術**を身に着けられます。

授業の形式・目標達成方法

【座学】

教科書、その他の文献、また教員が介護や相談援助での現場で経験した生の体験談に基づいた内容。

【演習】

個人ワーク：自分自身と向き合いながらコミュニケーションについて学びます。

2人1組演習：対人援助における実践をイメージしながら学びます。

グループワーク：複数人との意見交換を行い、様々な価値観の中で、チームワークの重要性を学びます。

【試験】

座学や実践したを通して経験した内容の理解度を確かめます。また知識の詰め込みだけではなく、実技テストにて技術の習得度合いも確認します。



授業内容

授業内容	事前課題レポート 400文字以上
第1回目 ・ 授業のガイダンス ・ 支援と指導の違い ・ 個別性について	テーマ：対人関係の視点から指導と助言についての違いについて調べ、それぞれどのような場面で使われているのか例をあげる
第2回目 ・ メッセージの共有 ・ コミュニケーションの効果	テーマ：対人援助において挨拶、敬語が必要か否かについてその理由も含め自身の考えをまとめる
第3回目 ・ 言語、準言語、非言語 ・ トータルコミュニケーション ・ メッセージの不一致	テーマ：対人援助の視点から「聞く」と「聴く」の違いについて自身の考えをまとめる

授業内容

授業内容	事前課題レポート 400文字以上
第4回目 ・ ペーシング	テーマ：自身の生活で非言語でのコミュニケーションが特に必要な場面について振り返り、その理由をまとめる
第5回目 ・ 非審判的態度の弊害 ・ 価値観の多様性 ・ 受容の実践	テーマ：（権威、健康、学歴、愛情、名誉、金銭、誠実）を自身の価値観で順位付けしその理由を明確にする
第6回目 ・ 同情と共感 ・ 励ましと共感 ・ 共感の効果	テーマ：対人援助での同情と共感の違いについて説明する

授業内容

授業内容	事前課題レポート	400文字以上
第7回目 ・うなずきと相づち、くり返し、明確化、要約 ・開かれた質問閉ざされた質問	テーマ：開かれた質問、閉じられた質問についてまとめ、日常会話で有効に働く場面をそれぞれ1つずつ上げる	
第8回目 ・病気や症状に応じたコミュニケーションにおける留意事項 ・コミュニケーションツール	テーマ：聴覚、視覚、構音障がい、失語症等障害に応じたコミュニケーションの留意点をまとめる。	
第9回 ・対人援助とリーダーシップ ・類型論 ・特性論 ・状況対応論	テーマ：あなたがリーダーシップと聞いてイメージすることを5個以上記載。また、チームにおいてあなたが思うリーダーに求められる役割をまとめる	

授業内容

授業内容	事前課題レポート 400文字以上
第10回目 ・ 交流分析 ・ チームにおけるコミュニケーション	テーマ：質問に答え（別紙）自身のエゴグラムテストを行う
第11回 ・ 交流パターン ・ プロセスレコード	テーマ：身近な人との気になる会話をプロセスレコードに記載し、コミュニケーションにおける考察を行う
第12回 ・ ストレスコーピング	テーマ：自身のストレスの内容とストレス解消法を記載。

授業内容

授業内容	事前課題	400文字以上
13回目 ・ 他者から見た自分 ・ 自分から見た自分 ・ 違いへの対処	テーマ：他者評価シート（別紙）での他者の評価とエコグラムを比べ、主観性と客観性のずれがなぜ起きるのか分析する	
14回目 心をオープンにする フィードバックと自己開示	テーマ：あなたが思う対人援助における自己開示の目的を記載する	
15回目 ・ 基本的な構えと交流様式 ・ まとめと振り返り	テーマ：ライフステージでの振り返りシート（別紙）を記入し今まで出会った人や、かかわりを振り返る。	

仕様教材

テキスト

対人援助とコミュニケーション第2版 諏訪茂樹 中央法規出版

パワーポイント

レジュメ

動画

その他、ブレインストーミング等に必要な教材



授業評価

- ▶ 定期試験60点
(実技を含む)



- ▶ 事前課題20点



- ▶ 授業の態度、理解度①～④の合計で20点



合計60点以上で合格

テスト採点内訳 60点満点

▶ 知識を問う問題40/60点



▶ 実技：視覚障害の方とのコミュニケーション
20/60点



視覚障害の方とのコミュニケーション 20/60点の配点

配点	20点	15点	10点	0点
	障害の状態に合わせたコミュニケーション技術を活用し、相手が安心できる声掛けが行え、一つ一つの対応に根拠が説明できた。	障害の状態に合わせたコミュニケーション技術を活用し、相手が安心できる声掛けが行えた。	障害の状態に合わせたコミュニケーションが不十分だったが、言語以外でのコミュニケーションを活用し相手が安心できるような配慮をした。	障害の状態に合わせたコミュニケーションが不十分であり、言語以外でのコミュニケーションも不十分



事前課題 配点

課題

配点	20点	10点	5点	0点
	課題がすべて提出されテーマに沿った内容が記載され、すべてにおいて自身の考え方も記載されている。	課題がすべて提出されテーマに沿った内容を記載できている。	課題を10/15以上提出。	課題の未提出が半数以上。

授業態度・理解度①



	A(5点)	B (3点)	C (1点)	D (0点)
個別性や信頼関係の構築の必要性を理解できる。	コミュニケーションにおいて個別性なぜの重要なのか自身の言葉で説明することができ、グループワークにおいても積極的に相手の話を聞く姿勢が見られ、自身の意見を発信していた。	コミュニケーションにおいて個別性なぜの重要なのか自身の言葉で説明することができた。	コミュニケーションにおいて個別性なぜの重要なのか自身の言葉で説明することが出なかったが、グループワーク等で自身の意見を発言していた。	個別性について自身の言葉で説明が出来なかった。またグループワークなどにおいても相手の話を聴く態度が持てず自身の思いを発信することもできなかった。

授業態度・理解度②



	A(5点)	B (3点)	C (1点)	D (0点)
様々な障害に応じたコミュニケーションについて理解できる	様々な障害の特性を理解したうえで、その特性に応じたコミュニケーション方法について自身の言葉で説明できた。また様々な場面を想定した応用的な対応について自身の考えを述べることもできた。	様々な障害の特性を理解したうえで、その特性に応じたコミュニケーション方法について自身の言葉で説明できた。	様々な障害の特性を理解し自身の言葉で説明できたが、特性に応じたコミュニケーション方法について説明できなかった。	様々な障害の特性や特性に応じたコミュニケーション方法を説明できなかった。

授業態度・理解度等③



	A(5点)	B (3点)	C (1点)	D (0点)
チームとして連携がスムーズに行えるためのコミュニケーションが行える	自身の傾向（アサーティブ、ノンアサーティブ等）を説明できるとともに、自身がアサーティブなコミュニケーションを図るうえでどのようなことが必要なのかを説明できた。	自身の傾向（アサーティブ、ノンアサーティブ等）を説明できた。アサーティブコミュニケーションについて自身の言葉で説明できた。	自身の傾向（アサーティブ、ノンアサーティブ等）を説明できた。	自身の傾向（アサーティブ、ノンアサーティブ等）を説明できなかった。アサーティブコミュニケーションについて自身の言葉で説明できなかった。

授業態度・理解度④



	A(5点)	B (3点)	C (1点)	D (0点)
自己覚知やストレスコーピングについて理解できる。	プロセスレコードを通して自身の思考の傾向を説明できた。またストレスコーピングについて理解し事例を通して状況に応じた有効なストレスコーピングについて自分の考えを述べることができた。	プロセスレコードを通して自身の思考の傾向が確認できた。またストレスコーピングについて理解しそれぞれの種類（問題焦点型、常同焦点型、ストレス解消型）のコーピングについて説明できた。	プロセスレコードを通して自身の思考の傾向が確認できたがストレスコーピングについて理解しそれぞれの種類（問題焦点型、常同焦点型、ストレス解消型）のコーピングについて説明ができなかった。	プロセスレコードを通して自身の思考の傾向が確認できなかった。 ストレスコーピングについて理解しそれぞれの種類（問題焦点型、常同焦点型、ストレス解消型）のコーピングについて説明ができなかった。

皆さんとの約束事



- ▶ 授業開始までに事前レポートを作成し授業に臨んでください。
- ▶ 授業後、授業の内容や質問等の課題があります。提出期限は授業翌日の午後12：00までとします
- ▶ 教員は皆さんの実践的なコミュニケーション技術の習得のために全力でサポートします。授業中にわからなかった事、質問、意見についてもしっかりとお答えします。授業中に発言してもらって結構です。もしくは毎回授業終了後の報告書にご記載ください。
- ▶ 利用者の幸せのために試行錯誤する姿こそが介護福祉士のあるべき姿です。学生時代は間違えたって構いません。皆さんの自由な発想こそが今一番必要ですので楽しく意見交換しましょう。
- ▶ 欠席が5回（遅刻が3回で1回欠席となります）で単位が取れなくなります。体調には十分配慮ながら授業に臨んでくださいね。

さあ！
たのしいコミュニケーションを一緒に学ぼう！

